



平成 30 年度地域の実術館・歴史博物館クラスター形成支援事業
よこはま地域文化遺産デビュー・活用事業
TSUZUKI ART & HISTORY

都筑民家園「日本を知ろう!」

「乙女文楽」

おとめ ぶんらく

「二人遣い」で女性が演じる

人形浄瑠璃文楽から派生した伝統人形芝居

● 演目

「義経千本桜」道行初音旅

● 人形解説

人形の仕組みと遣い方

人形体験

会場から希望者3名



2018年11月25日(日)

受付13:00～ 開演 13:30～終演 14:30

会場 都筑民家園 主屋

出演・ひとみ座乙女文楽

- 参加費：1,000 円 / 人 (小学生以上)
- 定員：50 名 (要予約、当日払い)
- 予約：10 月 11 日 (木) 9:00～
- 申込み先：都筑民家園 TEL 045-594-1723

■主催：よこはま地域文化遺産デビュー・活用事業実行委員会、NPO 法人都筑民家園管理運営委員会

■共催：横浜市都筑区、横浜市歴史博物館 ■後援：都筑区ふるさとづくり委員会 ■協力：(公財) 現代人形劇センター

おとめ ぶんらく

乙女文楽〈ひとみ座〉

乙女文楽とは

人形浄瑠璃文楽から派生した伝統人形芝居です。大正末から昭和の初めにかけて、文楽の人形遣い五世桐竹門造らによって誕生しました。

文楽では一体の人形を三人がかりで操る「三人遣い」が特色ですが、乙女文楽は人形の仕組みに工夫を施し、「一人遣い」で演じます。また女性ばかりで演じるのも大きな特色です。女性がひとりで遣うことにより、いっそうの細やかさと、写実性、スピード感が加わり、華やかな舞台を繰り広げます。



演目について

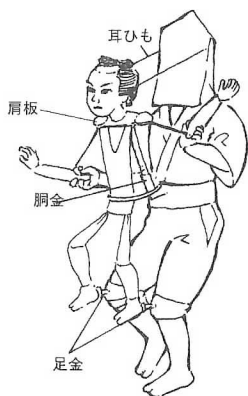
「義経千本桜」は、源平合戦の後日譚をつづった作品で、人形浄瑠璃の三大名作と謳われています。作品全体は、五段構成の長い物語で、本演目はその四段目にあたります。

上演場面は、肉親の縁薄く流浪する源義経と、亡き親を一途に慕う子狐のふれあいを描いた物語の一場面。

義経は兄源頼朝の不興を受け、吉野に隠れ住んでいた。恋人の静御前は家来の佐藤忠信を供に、義経を追って吉野山中にさしかかる。静御前は義経を想い、忠信は屋島の合戦で戦死した兄の様子を物語る。が、忠信にはひとつの秘密があった・・・

B U N R A K U

Profile ひとみ座乙女文楽



図：和氣瑞江

遣い方の図版

創始者のひとり桐竹門造の直弟子である桐竹智恵子に、40年以上にわたって教えを受け、プロとして活動する一座です。「ひょっこりひょうたん島」などで知られる人形劇団ひとみ座の女性座員が1967年から伝承し、本年50周年を迎えます。

日本国内はもとより、アジア、ヨーロッパ、アメリカと世界の各地で公演し、好評を博しています。

桐竹智恵子の他界後、文楽の一線で活躍する桐竹勘十郎の指導を仰いでいます。

photo 古屋 均



■問い合わせ：都筑民家園

TEL 045-594-1723 〒224-0028 横浜市都筑区大柵西2
(最寄り駅：横浜市営地下鉄センター北駅)